

## 鳥取大学工学部長候補者届出書

工学部長候補者選挙管理委員会

立候補者氏名	大西善元	印	届出月日	平成16年12月28日
自薦・他薦の別	自薦	推薦人氏名		印
<p>応用数理工学科の大西善元です。工学部長選挙に立候補致します。私は</p> <p>工学部としての特質を踏まえ、大学執行部と協調しつつも、大学に対して</p> <p>「言うべきことは言う」、そして、毅然とした態度で諸事に対応する</p> <p>ことが肝要である</p> <p>と思っており、このスタンスで学部の運営に当るつもりです。これに関し、日頃の思いを述べ、所信表明と致します。</p> <p>大学を取り巻く環境が激変した今日においても、アカデミックサイトとして教育・研究環境を従来以上に良好な状態に保ち、研究成果と共により良い人材を世に送り出す必要があることには変わりはありません。小規模な大学、小規模な部局の宿命とも言える小人数の限られたスタッフの中で、しかも教育・研究に、特に、学生の教育と研究指導には多大な時間を費やさねばならない状況の中で、あれやこれやと諸々の事柄に対応しようとするのでは、いづれ破綻をきたす状況となりかねません。小規模な部局がともすれば陥りがちなこのような状況を回避し、部局の健全な運営を行い、健全な教育・研究環境を保持するには、然るべき所に然るべき事を言い、対応すべき事柄かどうかの取捨選択を部局の規模を考えて行う、そして、然るべき事柄に対してはきちんと対応することが肝要であると考えています。これまで、あれやこれやと種々の事柄に対応せよとのことで随分時間を費やしてきました。しかし、その結果として、何がそして何処が工学部における教育・研究の實質に、そしてその環境整備に資する形で変わったのでありましようか。非常に、疑問が残るところです。私が、今もって釈然としない事柄のほんの一例ですが、学生の要望であるとの理由で、平成17年度において全学共通科目における主題科目を単純に増やし、しかも、彼らの要望に沿うのかどうかも分からないそれらの科目を、専門としての実績をほとんどもたない各部局のスタッフに単純に担当させる。真に、必要な科目とあらば、非常勤講師を雇ってでも適任者に担当してもらうべきであり、また、そのようにする努力が必要であろう。このようなことで、本当に、学生に対する効果的な教育が期待できるのだろうか。教養教育の重要性を却って損なう結果になるのではとの危惧を抱く。学生の4年間を預かる部局として、このような状況には毅然とした対応をすべきと思っています。</p> <p>また、これは別の事ですが、大学執行部と共同歩調をとりながら、鳥取県、鳥取市およびその周辺地域における鳥取大学および工学部の重要性をさらにアピールし、教育・研究の活性化に向けて地方自治体から何某かの経済的支援を得る道を探り、可能ならばその道筋をつけておきたい。鳥取大学は規模は小さいながらも、約5000名近いスタッフと学生を抱え、県や市およびその周辺地域に与える文化面での影響は言うに及ばず、経済面においてもその地域の活性化に果たす役割は相当大きいということを、それぞれの自治体に改めて認識して頂く必要性を感じているからです。</p>				